

尾ノ上の風

第 21 号



学ぶ きたえる 助け合う

文責:校長 村上 正祐

学校保健委員会 開かれる

2月19日（水）に4年生以上が参加して学校保健委員会が開かれました。この会は、学校医の先生方にも来ていただいて、子どもたちと職員、PTAの方々に参加して、健康や安全に関心をもって取り組み、よりよい生活習慣の定着をねらいとしています。

今回のテーマは、「事故のない安全な生活にするために～登下校、ろうか歩行を考えよう～」でした。会では4年生から6年生までの子どもたちが各クラスで取り組んできたことを発表し、最後に学校医の比企先生、越山先生からアドバイスをいただきました。子どもたちにとって「わかっているけど、なかなかできていない通学路の安全な歩き方」を振り返るいい機会となりました。



自分のクラスの取り組みをプレゼンする子どもたち（上）とアドバイスをされるお二人の校医の先生（下）

コロナウイルスの脅威 マスク着用をお願い

コロナウイルスの脅威については、連日の報道ですすでにご存知だと思います。熊本県でも感染者が出てから一段と心配な状況です。熊本市教育委員会からは、感染発生に伴う対応についての方針が出されており、卒業式や遠足といった行事の大きな変更を始め、日常生活や授業などでも変更を余儀なくされています。とにかく感染を防ぐためにできることをするしかありません。そのために、お子様にマスクの着用を再度お願いします。ただ、ドラッグストアやネットでも品薄で入手が大変むずかしい状況です。あくまで可能な範囲でのお願いです。

1日も早く感染の収束を願うばかりです。

行動力のある尾ノ上っ子

以前、学校だより第18号で「気になること」としてゴミの散らかしが多いので、声掛けをお願いしたことがありました。地域で月1回開かれている老人会・公民館・オバパト合同会議でもお願いしたほどです。

きっとご家庭でも話題にしてくださったり、学校のそばを通るときに注意して見てくださったりしているからでしょう。子どもたちも気をつけてくれるようになったと思います。最近学校内の敷地のゴミが激減しました。

挨拶も児童朝会で「あいさつの4ポイント」を委員会の子どもたちが呼びかけしてくれたら、翌日から立ち止まって挨拶が激増しました。

すぐに行動にうつせるのは本当にすごいことだと思います。

学力テストを活かす

3年生以上は2学期末に学力テストを受けました。昨年度から学力テストの実施時期が変わりました。テストの結果を受けて、次の学年に進級する前にきちんと復習して力をつけるためです。

4年生以上は、前学年のときの成績からの伸びも分かります。2月にテスト結果が返ってきましたので、これから3月の修了式までにできなかったところを復習していきます。ノートに復習することに加えて、熊本市ではiPadを導入しているので、これも使って復習をします。Aiが一人一人のつまずきに合わせて問題を出题してくれます。ですから、一人一人取り組む問題も量も違います。習得ができていない教科は、問題さえ出ないそうです。しっかりと復習をしてほしいと思います。学力テストの結果は、お子さんを通じて担任から手渡しされます。結果のみに一喜一憂するのではなく、これから努力していくべきことをお子様と話題にしていきたいと思っています。

こんにちは！お仕事&授業拝見35 ひまわり学級 算数 中山瑞穂先生

中山先生の授業を参観して感じたことは、

- ①子どもと先生との良好な人間関係が効果的な学習につながっている。
- ②学習課題に合わせた場作りが工夫されている
- ③選んだり動かしたりといった具体的な活動があり、子どもからつぶやきがたくさん出る学習であり、充実した1時間になっているということです。

授業の入りは、ミニカードを使ってテンポよく10問答えていくうちにすんなりと引き算の問題に入っていました。黒板でのやりとりは、算数ブロックを動かす、式を書くなどの具体的な活動をできるだけ児童にさせて、可能な限り発言させていました。そのため児童はたくさんつぶやきを言いながらリラックスして操作をすることができていたようです。また、集中力の短い低学年を集中させる手立てが細やかでした。ひとつは、自分の机→黒板での操作→自分の机と活動毎に場所を変え、ある程度動けるようにしてあり、そのことが気分転換になり集中力の持続につながっています。ふたつめは、教具の工夫です。黒板でやった操作を自分の机でも同じようにできる工夫やホワイトボードには、ブロックを置く場所、式を書く場所、それからキーワード等のカードがボードの決められてあり、混乱しません。児童がこのボードを使いながら操作ができる環境づくりがなされていて、1時間の授業が本当に濃密で、脳みそが汗をかくくらい集中した1時間でした。



ブロックを操作しながら数の概念を指導する場面(上)と使いやすくまとめられたグッズ(下)



中山 瑞穂(なかやま みずほ)先生 尾ノ上小1年目

【中山先生にインタビュー】どうして先生になろうと思ったのですか。

小学校5・6年のときの先生の影響だと思います。クラスに特別支援学級の友達が交流で来ていたので、学校の先生になりたいと思い、特別支援教育に興味をもったのだと思います。だから、大学の時は自閉症の子どもたちと交流するサークルに入って活動していました。

こんにちは！お仕事&授業拝見36 6年1組 算数 満枝先生編



班でホワイトボードにまとめたり話し合ったりする様子

満枝先生の授業を参観して以下の3点が特にすごいと感じました。

- ①満枝先生の算数指導のスタイルがあるので非常にスムーズな流れになっていること
- ②子どもたちが理解しやすいような問いかけや指示で授業を組み立てていること
- ③できるだけ多くの子の発言をさせる機会をつくっていること

本時の授業は、比を使った問題で6年生が苦手意識をもつことが案外多い学習です。

授業では、6年生でもあっても問題を音読させて確認したり、ノートにきちんと日付やページ数、タイトルなどを書いたり日々の取り組みをきちんと積み上げた指導でした。

また、満枝先生が子どもたちに聞くことは明快で、聞いたこと自体が考えていく手がかりになっているなど、子どもの思考に無理がないように進めていました。「手掛かりになっていることは」「尋ねてあることは」と同じ聞き方で算数を継続して指導してあるため、子どもたちも何を探せばよいのか、何を見つければよいのかが分かり、授業を受けていくうちにだんだんとわかってくるという感じです。

また、小さいホワイトボードを班ごとに配り、話し合っ出てきた考えや線分図などを書くなどお互いに対話する場面も意図的にとっておられました。授業全体は、節度ある授業でありつつ、それでいて、子どもとの言葉のキャッチボールがあり、ほっとする雰囲気も作っているのがうまいなあと感じた1時間でした。



満枝 克利(みつえだ かつとし)先生 尾ノ上小1年目

【満枝先生にインタビュー】どうして先生になろうと思ったのですか。

小学校高学年のころからなりたかったのです。剣道をしていて、小学生に剣道を教えたいなあ、教える立場に立ってみたいなあと思ったことと、大学の先生の「教育は人材を創造する」という言葉に影響を受けたからです。